

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3回相模原市橋本地区における美術館の整備に関する検討委員会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話042-769-8202(直通)				
開催日時		平成31年1月31日(木) 14時00分~15時20分				
開催場所		アートラボはしもと 会議室				
出席者	委員	4人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	8人(市民局次長、文化振興課長、他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) アートラボはしもと後継施設の整備に向けた市民意見聴取の結果について (2) アートラボはしもとにおける実施事業等の評価について (3) その他 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

冒頭(委員長より一言)

去年から議論してきた中で、ようやくアートラボはしもとの事業に係る外部評価や、後継施設の整備に向けての類似施設の調査などの報告をいただくが、順番は逆であると考えるので、この点は反省し十分認識していただきたい。

2 議題

(1) アートラボはしもと後継施設の整備に向けた市民意見聴取の結果について事務局から資料に基づき説明を行った。

アートラボはしもと事業推進協議会員を兼ねる委員からの補足説明。

アートラボはしもと事業推進協議会は、発足当時よりアートラボのあり方や運営について議論を重ねてきた。

その中でアートラボ再整備についても、発展的運用のための活発な意見が多数出ている。まだ取りまとめの段階ではないが、アートラボ再整備とそれ以降の運営に関して重要な意見も出ているので、今後、本委員会に向けてのご提案としてまとめていきたいと考えている。

アートラボ事業推進協議会には長く関わっている方も多く、自身が関わる中での課題等が意見として表れている。元々がマンションギャラリーであった建物を、必要に応じた工夫を行いながら活用していく中で、活動そのものが発展してきたというところが施設の特徴でもあり、建物が変わっても大切にしてもらいたいところであると感じている。枠組みが決まってからその中で活動が制約されてしまうようなことにはなってほしくはないと考える。これまで培ってきた活動を通じて、地域や学校教育との連携による結びつきが強くなってきている。そうした成果をこれからどう反映させていくかが課題となっており、学校教育でいえば大学との連携だけでなく、小中高とどのような形で関わっていくかも検討をしていきたい。既にさがみ風っ子展などを実施されているが、発展的に様々な活動が生まれてくることが期待される。

○市民や関係者から多様なご意見をいただいているので、集約して検討にフィードバックしていく中で、機能性を高めていくことが重要である。大学施設と連携が取れるという極めてユニークなスキームを持っているということは、ある意味注目される。文化施設、美術館もそうだが、今後、公的資金の減少など厳しい時代に入っていく中で、新しいスキーム作りに寄与していくのは大きな役割だと思っている。

また、昨今の美術鑑賞は知識優先な鑑賞よりも、むしろクリエイティブティな対話型の鑑賞を優先することが奨励されており、それが企業の社員教育などにも採用されているため、企業等と連携できるようなそうしたソフトを作っていくことが重要であると感じる。

(2) アートラボはしもとにおける実施事業等の評価について
事務局から資料に基づき説明を行った。

評価の中で改善すべき点も提示され、指摘内容についてももっともなものであることから、市民意見と同様にプラティカルな面で改善していく必要があると感じる。

(3) その他
先進美術施設等の視察について、事務局から資料に基づき説明を行った。

- 八戸ポータルミュージアムはっち、年間100万人以上が利用していたと記憶している。年間100万人以上が利用している施設は、都内の美術館を含めてもあまりない。また、施設内の動線も珍しく、通常はなるべくぶつからないように設計するが、ここはわざと澱みの動線を作っている。公共空間の動線などを含めて、ワークショップを開催するなどし、はっちの事例を参考にしていくことも効果的と考える。
- 以前訪問して印象的だったのは、美術施設ではあるが一生懸命高校生が勉強していた。そういう光景はあまり見たことがないと感じた。
- 高校生や中学生の溜まり場として喋っているだけでもすごくいい風景だと思っている。大抵の美術館では追い出されてしまう。それを受け入れるかどうか大きい。彼らにとっても居心地の良い場になっている。
- 単なるアート施設ではなく、集いやすい場所づくりをしているという印象が強くある。
- 資料にもあるが、八戸市が美術館整備に向けてコンペの公募条件を作るに当たって、必要諸室の想定を沢山積み上げているが、最終的には大まかなゾーンニングを提示したことにより、提案が自由にでき、様々な案が出るなどとても戦略的に検討が進められている。その点は、学ぶべきところであると感じる。
昨年八戸市もアートラボはしもとに関し視察に来ている。大学連携について注目しており、今後取り組んでいくとのことであった。
- いずれにしても、ひとつのヒントとして継続して具体的に調べたほうがよい。

次回に向けた検討概要について、事務局から資料に基づき説明を行った。

本日、様々な報告をさせていただいたが、外部評価、市民や関係者からの意見等を踏まえて、次回事業目標をどのように設定し、どのような事業を実施していくか、また、実施に向けてどのような体制を整えていくかなどを改めてご提案させていただければと考えている。併せてハードの部分では、モデルプランをご提示させていただきながら、ご議論いただければと考えている。

欠席された委員からのメール内容を事務局より報告した。

「市民意見聴取結果、事業評価結果、視察結果が出揃い議論の前提が整ったと考える。市民、関係団体等からいただいたご意見は的を得ており、活動を活発化させていくためには人員配置の強化を図るべきである。その上で事業評価に基づいて、今後の活動内容や施設・設備が決まっていくものと考えている。また、検討体制として、開館まで見届けていくことがこの審議会の責務であると感じているので、継続するか検討をお願いしたい。」とのことである。

○次回以降協議したい。

3 閉会

以 上

相模原市橋本地区における美術館の整備に関する検討委員会
委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あまの 天野 たらう 太郎	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	委員長	出席
2	こばやし 小林 たかし 貴史	東京造形大学		出席
3	はまだ 浜田 ひろあき 弘明	桜美林大学リベラルアーツ学群		欠席
4	ひぬま 日沼 ていこ 禎子	女子美術大学芸術学部		欠席
5	もりわき 森脇 ひろゆき 裕之	多摩美術大学美術学部	副委員長	出席
6	やまぎし 山岸 あや 綾	法政大学デザイン工学部		出席